

## 編集後記

ここに『北の丸』第四十三号をお送り致します。所収した論考の概略は以下のとおりです。

「書物方年代記」は、徳川將軍家の蔵書（いわゆる紅葉山文庫）を管理する書物方の業務日誌の紹介です。本稿は、前号（第四十二号）から継続的に発表しているもので、今回は宝暦十一年（一七六〇）から安永五年（一七七六）の記述の中から特筆事項を紹介しています。

「当館所蔵漢籍の「宋版」及び「元版」の解題」は、国立公文書館が所蔵する漢籍について、その書物の内容・著者・伝来等を解説したものです。当館は、中国の南宋時代に刊行された「宋版」と元時代に刊行された「元版」を約一三〇部ほど所蔵しています。本稿は、これらの書籍を一般の利用者にも分かり易く解説することを目的としたものです。

「経済産業省（通商産業省）文書の構造と移管のあり方について」は、当館で実施している「公文書専門職員養成課程」の修了論文です。本稿は、経済産業省及び通商産業省からの移管公文書を分析し、国立公文書館が所蔵する各省庁の移管公文書の内部構造を理解するための基礎的な作業モデルを提示しています。

「文部省・文部科学省における文書管理と国立公文書館移管文書」もまた、当館で実施している「公文書専門職員養成課程」の修了論文です。本稿は、文部科学省の文書管理体制について、明治四年（一八七一）の文部省設置から平成二十二年（二〇一〇）三月までの約一四〇年間にわたる文

書管理規則を概観しています。

「公文書館のデジタルアーカイブの一般に向けた利用機能に関する考察」は、国内の図書館や国内外の公文書館が提供している「デジタルアーカイブ」の現状を調査することにより、当館が提供する「国立公文書館デジタルアーカイブ」に必要な利用者サービス機能について考察しました。またこの考察にもとづいて、国内の公文書館が提供する「デジタルアーカイブ」機能の在り方についても述べています。

「イギリス国立公文書館の近年の取組」は、イギリス政府全体における情報マネジメント政策、その枠組みの中でのイギリス国立公文書館の活動、特に電子情報・記録の管理をめぐる同館の取組み等について、いくつかのドキュメントを検討しながら、最近の動向の一端を紹介したものです。

また当館では、春と秋に特別展、夏に企画展を毎年開催しています。当館が所蔵する資料があるテーマに沿って展示するもので、来館者の皆様からご好評をいただいております。「展示会報告」は、平成二十一年秋から平成二十二年秋までに行われた四つの展示会の概略を報告したものです。

当館では、来館が難しい方々にも当館の資料が利用できるよう、デジタルアーカイブの充実を図っています。ホームページのアドレスは <http://www.archives.go.jp/> です。是非、ホームページをご覧ください。

（土屋）